



副代表幹事  
アジア委員会 委員長  
**萩原 敏孝**  
小松製作所  
相談役・特別顧問

## Contents

- 01 巻頭言  
萩原 敏孝「Speed is Money」

---

- 02 特集  
**2010年度  
新副代表幹事座談会**

---

- 11 リレートーク  
船津 康次「中国に思う」

---

- 12 委員長インタビュー  
金融・資本市場委員会 小林 栄三  
中堅・中小企業活性化委員会 岩田 彰一郎  
雇用問題検討委員会 佐藤 龍雄

---

- 15 経済同友最前線  
金融・資本市場委員会 提言  
「わが国の金融・資本市場の活性化の課題」  
中堅・中小企業活性化委員会 提言  
「21世紀 中小企業ニューディール政策」  
雇用問題検討委員会 意見書  
「働く意欲に応える社会の構築」

---

- 21 シンポジウム  
「日本に科学技術政策はあるのか」

---

- 23 第1152回会員セミナー  
カンデ・ユムケラー  
国連工業開発機関 (UNIDO) 事務局長/  
国連エネルギー (UN Energy) 議長  
「アフリカ開発の現状と今後」

---

- 24 新入会員紹介  
2010年6月18日現在の入退会者

---

- 25 同友会スケッチ  
2010年6月の記録と8月の予定

---

- 26 私の思い出写真館  
佐伯 基憲「第三の開国期に思う」

## Speed is Money

新興国の台頭に伴い急速に変貌を遂げるグローバル市場において、わが国の存在感が年を追うごとに低下している。このような現状を見るにつけ、日本社会は総体として、国際経済の潮流と世界における自らのポジションを直視する姿勢に欠けていないかと懸念する。一人当たりGDP、国際競争力ランキング、学童の学力低下、群を抜く国の債務残高、低出生率、高齢化率、貯蓄率や労働生産性の下落、食糧/エネルギーの低自給率、外国留学希望者の減少、一向に進歩しない国際言語としての英語力等々、わが国の劣化傾向を示す事象に事欠かない。

企業経営では、あらゆる戦略・計画の基本は現実を直視することから始まる。国の戦略の策定も変わりはない。わが国経済を取り巻く国際環境についていえば、市場が国内や先進国から新興国に劇的にシフトしているというのが真相である。内需の構造改革、質の向上は重要だが、わが国が持続的に成長できるかどうかは、極言すれば、新興国の需要をどれだけ取り込めるか、海外の市場でどれだけ稼げるかにかかっている。わが国のGDPに対する輸出依存率は17%程度と決して高くない。このことは、日本経済は、いまでも相対的に大きな内需に支えられて成り立っている、ということではないか。輸出依存率が韓国の1/3というレベルは、わが国の輸出競争力、国際競争力が競合する他国に比べて弱体化していることの左証であり、経済成長に拍車がかからない大きな要因となっている。内需が飽和状態にある中で、外需依存の脱却を声高に言われても違和感がある。

政府もようやく重い腰をあげて法人税の引き下げ等企業の国際競争力強化の具現化に舵を切ろうとしているが、具体的中身と迅速な実行が極めて重要である。グローバル市場が急激に変化・拡大していること、中国・韓国はもとより各国とも自国の国際競争力強化を目指してダイナミックに対応策を打ち出していることを考えると、わが国の強化策が小出しで、時間をかけては、間に合わない。

その意味で中国・韓国に遅れをとっているFTA/EPA等経済連携協定の促進についても、ネックとなっている農林水産業の抜本的な改革とパッケージで、迅速かつ果敢な打開策の実行が望まれる。対応が遅れることは競争に負けること。「Speed is Money」である。